

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立国本中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 58人

② 算数 58人

5 留意事項

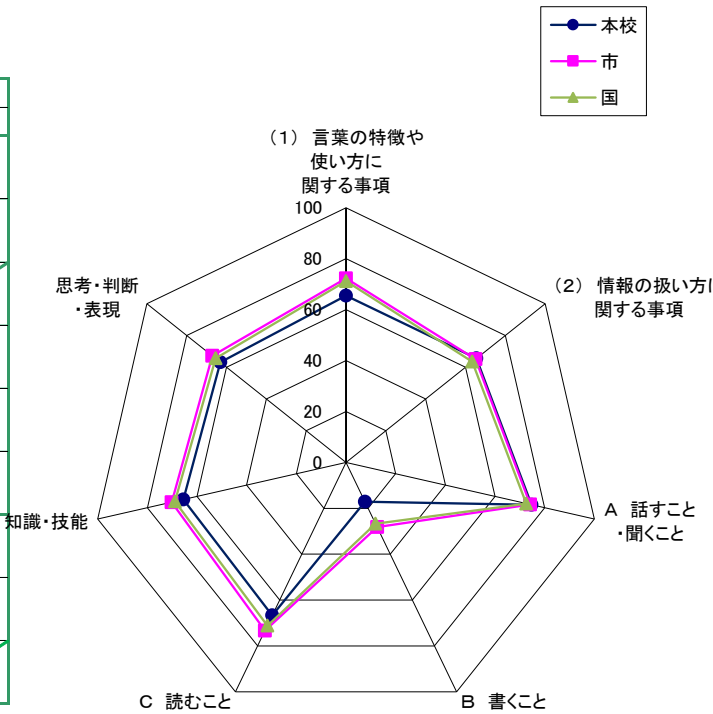
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立国本中央小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	65.5	72.3	71.2
	(2) 情報の扱い方にに関する事項	65.5	65.0	63.4
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	74.7	74.2	72.6
	B 書くこと	17.2	28.2	26.7
	C 読むこと	66.7	73.3	71.2
観点	知識・技能	65.5	70.2	68.9
	思考・判断・表現	63.1	67.2	65.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

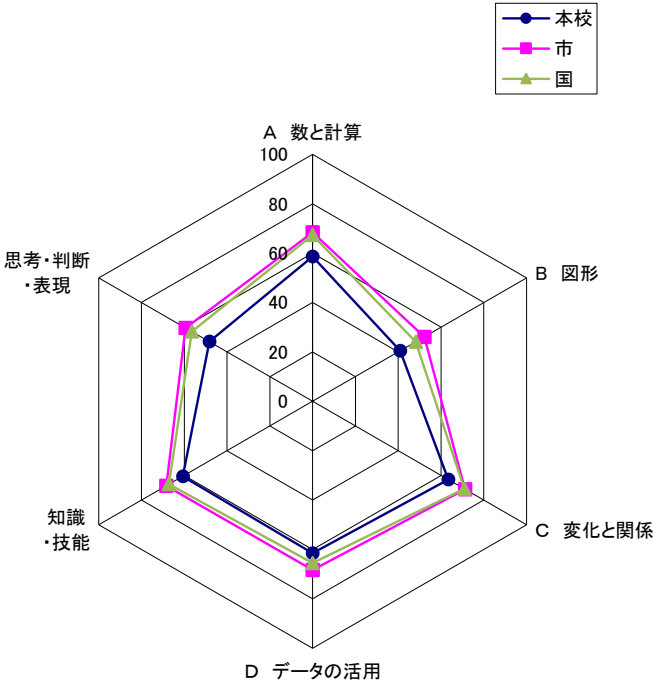
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、全国平均を下回っている。 ○敬語については、尊敬語の使い方を理解できている。正しい敬語の使い方について身に付いている。 ●「意外」の「意」や「期間」の「期」の漢字が書けていない児童が多いことから、正しく漢字を書くことに課題がみられる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の意味をきちんと理解し、漢字を使う力が十分ではない。新出漢字や同音異義語を指導する場面では、その漢字を使った熟語を集めたり、熟語の意味や例文を調べたりする必要がある。また、漢字練習を行う場合には、熟語だけで練習するばかりではなく、その熟語を使った短作文を書く時間を確保する。
(2) 情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、全国平均を上回っている。 ○情報と情報の関連付けの仕方、図などによる語句と語句の関係の表し方については理解し使うことはできている。	・図で囲まれた語句と語句の関係を適切に理解することができている。今後も文章を読み取る際、文中の言葉同士の関係を意識させる授業を展開していく。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、全国平均と同程度である。 ○インタビューの問題で、「インタビューする人が質問した理由」「質問の答えを要約する」ことへの正答率は全国平均よりやや上回っている。 ●「目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる」問題では、要約の言葉の不足が見られる。	・「目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる」問題では、要約の言葉の不足が見られる。必要となる言葉や文章を見逃していることと字数の問題によるものと考えられるので、言葉や文章に線を引く指導により見落としを防ぐことと、指定字数での作文の反復練習により、考えをまとめる力の向上を図る。
B 書くこと	平均正答率は、全国平均を下回っている。 ●複数の資料の要点をまとめて、指定された条件に合わせて文章を書くことに課題が見られる。特に、資料の中の、棒グラフから分かったことを書くことができていなかった。	・複数の資料から分かることを適切に読み取り、要点を短くまとめる力が十分ではなかった。国語や他教科で、資料を読み取る場面では、読み取った内容を端的に説明することを繰り返していく。特に、グラフから読み取れることを文章で書く練習を行っていく。また、書き終えた後で、段落構成や文字数等の指定された条件を満たしているか、読み直す習慣を付けていく。
C 読むこと	平均正答率は、全国平均を下回っている。 ○選択問題で全く違った答えを選んだ児童の割合は1.7%と4択の中で最も低かった。 ●資料を読み取るときに、一部のみを見て回答していることに課題がある。	・文章を読み取り自分の意見を書く問題では、多くの児童が半分の内容までは読み取ることができていた。また自分の意見に対しては多くの児童は答えることができていた。書いてある内容を読み取るために、段落をつなぐ接続詞やキーワードに注目させるようにする。また、自分の意見を書くことを引き続き授業で取り入れていく。

宇都宮市立国本中央小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	58.6	68.4	67.3
	B 図形	40.9	52.2	48.2
	C 測定			
	C 変化と関係	63.4	71.2	70.9
	D データの活用	61.5	68.3	65.5
観点	知識・技能	60.7	68.4	67.2
	思考・判断・表現	48.3	59.4	56.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は、全国平均を下回っている。 ○2位数÷1位数の筆算について、各段階の商の意味を考える問題では、全国平均を上回っている。 ●加法と乗法の混合した整数の計算の理解に課題が見られる。	・問題の場面を正しく把握したり、意味を考えながら立式したりできるようにするために、自分たちに身近な場面で考えさせる指導をしていく。 ・計算技能の習熟のため、計画的・継続的に、数の仕組や各計算方法の意味を繰り返し指導する。 ・復習の時間を設け、繰り返し同じパターンの問題に取り組ませて計算の仕組みを理解させる。
B 図形	平均正答率は、全国平均を下回っている。 ●台形の意味や性質についての理解に課題が見られる。 ●高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断することへの理解に課題があると考えられる。	・基本的な図形の定義や性質についての理解を更に深め、作図ができるようにタブレット等の活用により繰り返し問題に取り組ませる。 ・作業的・体験的な活動を通して理解できるようにするとともに、図形の念頭操作にも慣れるように実物や映像を効果的に使って指導に当たる。 ・言葉や数を使って、自分の考えを説明できるようにするために、ペアやグループ学習において、自分の言葉で説明する場を設ける。
C 変化と関係	平均正答率は、全国平均を下回っている。 ○椅子5脚を重ねたときの高さを求める問題では、無回答がいなかった。また、正答率は、県の平均を上回っている。 ●椅子4脚の重さを基に48脚の重さを求める方法について、式や言葉を用いて説明する問題では課題が見られる。	・「比例」の学習において、数直線や式、言葉などを用いて基準量と比較量の関係を説明する活動を多く取り入れることで、2つの数量の関係を正確に読み取ることができるようにする。 ・自分の答えの求め方に関して、式や言葉を用いて説明する活動を授業で意識的に多く取り入れることで、説明に慣れさせていくとともに、必要なキーワードを身に付けられるようにする。
D データの活用	平均正答率は、全国平均を下回っている。 ○二次元の表から、読み取ったことの根拠となる数の組み合わせを選ぶことはできている。 ●問題に合った解答をしていなかったり、文章で答える問題では無回答率が高く、問題文の理解と文章力に課題が見られる。	・記述式の問題に回答できるようにするため、算数だけでなく、社会や理科などの授業でも、グラフや表から読み取れたことを文章に書く活動を取り入れる。さらに、書いた文章をペアやグループで交流することで、自分の書き方を見直すとともに広げられるようにするなど協働的な学びを充実させる。

宇都宮市立国本中央小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「先生は、あなたのよいところを認めてくれている」と回答した児童は95.0%で、全国平均を5.8ポイント上回っている。教員からの励ましを素直に受け取り、成長していこうという児童の意欲が見て取れる。

○「将来の夢や目標をもっている」と回答した児童の割合は、90.0%で、全国平均を8.5ポイント上回っている。キャリア教育による成果、将来への展望を前向きに考えている児童の多さが見て取れる。総合的な学習で職業観と関連させながら、さらに明るい未来への展望をもたせたい。

○「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と回答した児童の割合は、80.0%で全国平均を11.5ポイントも上回っている。しかし、20.0%の児童は気軽に相談できないという思いがある。児童理解や、児童との対話ができる時間の確保が必要。

●「学校に行くのは楽しい」と回答した児童は80.0%で、全国平均を5.3ポイント下回っている。それぞれの児童が学校へ来る楽しさをもてるよう、多様な価値観に寄り添える学級経営を目指していきたい。

○「読書は好き」と回答した児童は88.3%で全国平均を16.5ポイントと大きく上回っている。前年度までの図書室の定期的な活用や家庭での協力・啓発の成果であると考えられる。継続して奨励していく。

○「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」と回答した児童は81.6%で全国平均を3.8ポイント上回っている。地域社会貢献への意欲は学級でも発揮されており、仕事をしたいという児童が多く存在している。

●「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」と回答した児童は70.0ポイントで全国平均を13.6ポイント下回っている。話し合い活動への苦手意識は高い。道徳のみならず、話し合い活動を積極的に授業に取り入れ、場数を踏ませることで自信を付けさせたい。

○「国語の勉強が好き」と回答した児童は76.7%、「国語の勉強は大切」が98.3%、「国語の授業がよくわかる」が91.7%とそれぞれ全国平均を15.2ポイント、6.0ポイント、7.2ポイント上回っている。意欲の高さを学力の向上につなげていきたい。

●「算数の勉強が好き」と回答した児童は50%で全国平均を11.4ポイント下回っている。国語と反して算数への意欲が著しく低い。役に立つものであり、必要性はわかっているが、これまでの蓄積の乏しさから自信をなくしてしまっていることが分かる。前年度までの学習内容の復習をしながら学習に取り組ませる必要がある。

宇都宮市立国本中央小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
「書くこと」への苦手意識を減らすための取組	朝の学習の時間等を活用した100字程度の視写と作文練習の実施。	国語の「書くこと」に関する問題では、指定された条件に合わせて解答することに課題が見られた。また、国語・算数とも記述式での無回答率が、高かった。
個別最適な学びに関する取組	ICT機器の効果的な活用。	「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」という設問に対して、91.6%の児童が肯定的に回答している。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
漢字の書き取りや、算数の計算といった基礎的な問題での誤答が多い。	朝の学習の時間や授業の最初の5分を活用して、学習内容の定着を図る指導の工夫。	・宮っ子ステップアップシートを実施する。 ・漢字練習や、計算練習といった基礎基本の問題を繰り返し行う。